

様式第 1（第 1 5 条関係）

会 議 録

会議の名称	令和 8 年度和泉市人権啓発活動(エンパワメント活動)助成金審査委員会
開催日時	令和 8 年 7 月 7 日（火）午後 1 時 4 5 分～ 4 時まで
開催場所	和泉市役所 3 A ・ 3 B 会議室
出席者	和泉市人権啓発活動(エンパワメント活動)助成金審査委員 野井委員、森委員、小川委員、角井委員
会議の議題	令和 8 年度和泉市人権啓発活動(エンパワメント活動)助成金交付申請に係る 助成金の適否について
会議の要旨	令和 8 年度和泉市人権啓発活動(エンパワメント活動)助成金交付申請に係る 助成金の適否について審議を行った。
会議録の 作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の 確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要 事項	傍聴人： 0 人

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（事務局）

- ・ 開会挨拶
- ・ 委員紹介及び委任状交付（机上配布）
- ・ 「和泉市助成審査委員会規則」による 委員長の選出
- ・ 委員長就任挨拶

事務局により議事進行

「和泉市審議会等の設置及び運営に関する規則」に基づき傍聴者の入室を認めていたが、傍聴者なし

本日の会議の議事録公表については、委員名簿は氏名を公表、本会議の個々の発言の要旨については、単に委員と表記し要点記録とする旨及び最終の議事録作成については、事務局に一任することを全委員了承。

（事務局）

審査基準表等について説明

応募団体数（４団体）及び進行方法（１団体、説明１０分／質疑８分／合計１８分、入れ替え２分）、審査基準について説明

【各団体より説明及び委員質疑】

＝和泉きらめきチャリティダンスフェス実行委員会＝

事業名：『和泉きらめきチャリティダンスフェス２０２６』

和泉市で福祉施設の運営に携わっており、福祉施設の利用者にも、プロのダンスパフォーマンスを生で見たいという思いをもって第１回目を手探りで開催し、コロナや台風で３回休んだが、今年１４回目を迎える。大変好評をいただき、また来年もやって欲しいといった参加者の声のおかげで、１４回という回数を重ねることができた。障がい福祉のイベントの多くは平日開催のため、祝日に開催することで、一般市民やダンス愛好家など、障がいとは関わりのない方に障がいをもっている方のダンス発表を見ていただくことができる。メインゲストはプロの社交ダンサーだが、ブラインドダンスや車椅子ダンスなど、福祉施設に通っている利用者の元気いっぱいのダンスを一般市民の方に見ていただく機会としてチャリティダンスの意味合いがあると思う。

プロのダンサーを呼ぶのはかなりの費用が発生するので、チケットを販売し、1部はダンス愛好家の方楽しんでいただけることを目的とし、2部はプロのダンス、車椅子ダンス、ブラインドダンスなども一緒に楽しんでいただけるような合体形式のフェスになっている。

たくさんのボランティアの皆さんで運営しており、他府県からもたくさんご来場いただいている。

市の後援を受けているので、国府小学校をお借りすることができ、会場が広いので、200から300人参加しないと寂しくなるので、毎年集客に一生懸命取り組んでいる。

昨年からは、私どもが所属している和泉市障がい福祉サービス事業所団体連合会の事業として続けていくという決断をし、チャリティダンスパーティからチャリティダンスフェスに名前も新たに再出発した。再出発にあたり、キッズダンスの発表もプログラムの中に組み込み、そのおかげで、若いパパ・ママの集客につながり、今までとは少し違う雰囲気では去年は新たなスタートがきれたと思う。

再三申し上げるが、かなりたくさんの費用がかかるため、エンパワメントの助成金は運営資金として、なくてはならないものとなっている。今年も良かった、楽しかったと言ってもらえるようなチャリティダンスフェスに作り上げたいと思い準備を始めている。

(委員)

プロのダンサーを呼ぶということだが、何人ぐらい呼ぶのか。

(和泉きらめきチャリティダンスフェス実行委員会)

1組のパフォーマンスで4曲踊っていただく。ラテン部門とスタンダード部門で交互にゲストをお呼びして1組で4曲踊っていただいている。

(委員)

今年の開催はいつか。

交流をされるとのことだが、障がいのある方はどれくらいの割合か。

(和泉きらめきチャリティダンスフェス実行委員会)

今年は10月25日の日曜日に開催予定。

1部はダンサーで200人近くは一般市民。2部は関係者100人近くで、一般市民の方が入場者として多い。障がいのある方は3割ぐらい。

(委員)

チャリティとついているが、募金や寄付などそのような活動はしているのか。

(和泉きらめきチャリティダンスフェス実行委員会)

募金箱を置いている。個人的には、いらなくなったダンス衣装などを寄付していただいて、資金調達のために買っていただいて、運営資金に回すようなことも少ししている。

(委員)

イベント収益は、「障がい福祉向上のために活用」と記載がある。たくさん入場者がいるとのことだが、実際に、昨年などはどういったことに活用されたのか。

(和泉きらめきチャリティダンスフェス実行委員会)

具体的には、和泉市障がい福祉サービス事業所団体連合会の各活動に少し寄付し、それを有効利用していただいているが、どんな使い方をするかはその年々で決めており、赤字にならないように運営している状況で、たくさん寄付できるような状況には至っていない。

(委員)

参加費・資料代の内訳に「500円が70名」と記載があるが、説明では「参加者は200から300人」とのことだった。その差は何か。

(和泉きらめきチャリティダンスフェス実行委員会)

参加者は200人から300人になるが、障がい者の方や学校関係者、携わっているこどもなどは無料で招待する方もいる。

(委員)

ポスターはどこに配布しているのか。

(和泉きらめきチャリティダンスフェス実行委員会)

関連施設、公共施設に置いている。

(委員)

障がい者の方が参加されるということで、キッズなどとの交流の場といったものは設けているのか。

(和泉きらめきチャリティダンスフェス実行委員会)

交流の場については、私たちも本当に大事なことだと考えており、毎回2部で「みんなで踊ろう」という参加者の皆さんと一緒に音楽に合わせて踊るというコーナーを実施しているが、今年はそのコーナーをもう少し充実して、しっかりレベルアップしてやりたいと思っている。

(事務局)

和泉きらめきチャリティダンスフェス実行委員会の皆さんありがとうございました。

==障がい福祉を勉強する会==

事業名：『障がい福祉を勉強する会』

障がい福祉を勉強する会は2013年5月に立ち上げ、14年目になる。東日本大震災が起こったのをきっかけに、障がい当事者として自分ができることがなにかと考え、「障がい者（児）の現状を理解してもらう」「勉強会をする必要性を伝える」「有志の集まりであることを伝える」「当事者は自己決定できるように常に福祉について学ぶ」この4つのために障がい福祉を勉強する会を立ち上げた。

去年の活動報告として、7月19日に、「吃音当事者が関わる防災」講演会を実施し、20人が来られた。

9月30日は、「生きづらさの卒業」講演会を開き、30人集まった。

12月20日は、「地域福祉ってなんやねん」講演&音楽というコンサートのような福祉まつりのような感じで実施し、16人の参加だった。

今年の2月21日には、「防災に役立つ！ポリ袋クッキング体験会」を実施し、車椅子の方も含め17人が参加した。震災のときは停電したりするので、水をポリ袋に入れてカレーを作った。

趣旨として、「障害者の諸法律を学ぶ」「障害者の情報交換」「多様な障害のある者への支援を行う」「啓発推進」という4つを目的に行っている。

この障がい福祉を勉強する会にはいろいろな障がいの方がいるので手話通訳や要約筆記が必要になり、それにお金がかかる。そのため、障がいに対する理解のための啓発活動を続けていくために助成をお願いしたい。

去年は、主に「防災と障がいの理解」という内容で講演会を実施したが、その時期に応じて探究心をもってこの活動を続けてきた。助成金を活用して、これからも長く続けていきたいと思っている。

(委員)

講演会実施後に、結果を広めるための活動は何かしているか。

(障がい福祉を勉強する会)

アンケートをブログに載せたりしている。

(委員)

良い取組なので、和泉市民の多くの方に広まるような、そういう活動をしていただきたい。

(障がい福祉を勉強する会)

はい。

(委員)

どういった周知の方法をとっているのか。

(障がい福祉を勉強する会)

和泉市の広報への掲載、小学校や他団体へのチラシ配布、施設でのポスター掲示などを行っている。

(委員)

たくさんの方が参加できるよう周知の方法も考えていただきたい。

(委員)

経費について、計画では3回実施予定だが、賃借料が1回となっているのはどういうことか。

(障がい福祉を勉強する会)

費用が発生するものが1回となっている。

(委員)

昨年度は防災や地域福祉に関する内容だったが、今年度は不登校や発達障がい、ひきこもり等こどもに特化した内容になっている。どういったきっかけか。

(障がい福祉を勉強する会)

周りに発達障がいのこどもがたくさんいることがわかり、不登校の状態が続いているのを見て、放っておけないと考え計画した。

(委員)

一般の人の参加は可能か。

(障がい福祉を勉強する会)

可能。障がいのあるなしに関係なく、どなたでも一緒に勉強してもらうことが目的。

(委員)

過去の講演会等の内容をホームページ等で周知したりはしていないのか。

(障がい福祉を勉強する会)

ホームページはまだ作っていないが、これから作っていきたいとは考えている。

(委員)

過去の講演会の内容がわかれば、今後の取組にも参加してもらえるのではないかと思う。

(事務局)

障がい福祉を勉強する会の皆さんありがとうございました。

==和泉市こども・若者地域団体ネットワーク==

事業名：『和泉市こども・若者地域団体ネットワーク&居場所マップ事業』

地域の中でいろんな支援団体があるにもかかわらず、その把握が難しいために、こどもや若者たちの居場所を運営する団体も個別に孤立していた現状を解決するために設立した。現在は26団体を掲載したマップを作成、運用し、団体間のつながりを創出している。

これまでは市の後援を受けてマップを作成していたが、自主財源の制約もあり、じゅうぶんな部数を確保できず情報を必要とするすべての人に配布しきれないという課題がある。情報の欠如というのは、こども・若者の孤立を生む直接的な機会損失かと思う。この情報の欠如を解消することは、こどもたちの基本的な権利を守ることに直結している。経験等がまだ少ないこどもたちは、自力で適切な居場所を選択するのは簡単なことではない。だからこそ、私たちは、バラバラだった情報を可視化することで、市民やこどもたちの知る権利、情報アクセス権と言われるものを確実に担保したい。情報が行き届かないことによる格差をなくし、誰もが等しく地域の居場所にたどり着けるような機会を作っていきたい。

次に、世の中にはいろいろなネットワークがあるが、その多くのネットワークは、一方的に司会が話すだけの総会や連絡会になってしまっているという特徴があると思う。和泉市こども・若者地域団体ネットワークの特徴として、参加メンバーが、こども食堂やフリースクール、学習支援、民間学習塾など、いろいろなフィールドで活躍しており、それぞれの多様な視点やノウハウが集積していることが特徴かと思う。また、10代の若い世代も多く、アプリケーションやAIを使ったりといった視点や、経験豊富な方の専門的な視点も得られる実践的なチームになっていると思う。

このネットワークの強みを生かして、居場所マップを年に1回ぐらいのペースで紙とデジタルで発行し、年4回、2・3ヶ月に1回ぐらいのペースで、定例会や勉強会を開催している。

居場所マップについては、フリースクールやこども食堂の最新データを網羅しながら紙媒体と、スマートフォン等ですべて確認できるデジタルデータを発行している。

定例会については、参加団体が集まって、顔の見える関係性を築く機会とし、外部から専門家を招いて、現場の課題解決スキルを学んだり、連帯関係を強化していきたい。

2025年1月から活動を始め、現在までで1年半ぐらい活動した。

助成金については、今までお金の制約があって届けられなかったところへ居場所マップを郵送するための印刷費と郵送費、専門家を招いて実施する勉強会の講師謝礼及び交通費に充てたいと考えている。

本事業によって、いつでも安心して行ける場所を可視化することができ、定例会等を通じて支援団体の孤立を防ぐことで、制度の谷間でこぼれ落ちてしまっているこどもや若者を支援していきたい。

(委員)

マップを作り、それをどう市民に還元していくかが大きな課題。頑張ってください。

(委員)

このマップに記載されている事業者が和泉市子ども・若者地域団体ネットワークに参加している事業者か。

(和泉市子ども・若者地域団体ネットワーク)

はい。それ以外の外部のメンバーもいる。

(委員)

例えば子ども食堂などは他にももっとあると思うが、メンバーを増やすための活動等はしているのか。

(和泉市子ども・若者地域団体ネットワーク)

ロコミやDMを送付して勧誘している。ただ、新しい人を募集していない団体があり、マップには載せず会議のみ参加する団体もある。直接行けるところには地道に足を運んで、もっと広げていきたいと考えている。

(委員)

たくさん会議等が開かれているが、計画書に記載されている以外にも経費がかかっているのではないかな。会費等を集めているのか。

(和泉市子ども・若者地域団体ネットワーク)

講師を呼んだ場合は数百円の参加費を徴収したこともあったが、会場費を抑えたりしてできるだけ徴収せずに実施している。

(委員)

こういった集まりが、活発になれば支援の質が向上し、市民へ成果が還元されることにつながると思うが、昨年の実績から具体的な効果はあったか。

(和泉市子ども・若者地域団体ネットワーク)

居場所などにマップを置くと、すぐになくなってしまう。また、マップを見た人に「これいいですね」と声

をかけてもらえたり、マップを見て団体を知ったという話も聞く。数値としてのデータはとれていないが、そういったアクションは得ている。

(委員)

ホームページのマップにはすべてのピンがたっていないように見えるがどうなっているのか。

(和泉市こども・若者地域団体ネットワーク)

表示の方法が、こども食堂だけの表示などいろいろと選択できるようになっていて、すべてを選択するとすべて表示される。

(委員)

それぞれの団体は今後どのようにまとまって、どんなふうに連携されていくのか。

(和泉市こども・若者地域団体ネットワーク)

ネットワークのつながりとして、オンラインなどでのやりとりの中で会議の告知をし、集まる。

(委員)

ネットワークというか、居場所マップを協力して作っていくという取組か。事業としてみんなで協力して計画をしているといったものはないのか。

(和泉市こども・若者地域団体ネットワーク)

マップを作って、顔の見える関係性を築いたうえで、お互いの困っている部分を補っていけるような関係づくりをめざしている。

(委員)

勉強会では何を学んでいるのか。

(和泉市こども・若者地域団体ネットワーク)

子育て支援室に、こどもまんなか計画の説明をしてもらったり、コミュニティソーシャルワーカーやスクール

ソーシャルワーカーの方たちには、活動内容を教えてもらい、連携できないかやりとりをしている。

(事務局)

和泉市こども・若者地域団体ネットワークの皆さんありがとうございました。

==療育と子育てを考える会==

事業名：『気がかりな子どもへの対応を学ぼう』

発達障がいと、自閉症のこどもへの対応をどうしたらいいのか、和泉市ではそれを学べるところがなかったの
で、学校の先生に「外部の先生を呼んで勉強会をしたいと相談したのがきっかけで講演会を開催し、20年にな
る。講演会を年2回と、コロナ前までは茶話会を毎月実施していた。

もう1つ、学校の先生方で運営してもらって、先生学習会というものも10年ほど実施していた。

講演会をなぜしたかという、こちらの対応の仕方によってこどもは変わる。教えると学べることもある。教
え方を学べば、そういうこどもたちにもできることが増えるということ、療育を勉強するようになってわか
ったので、それを皆さんに共有したい。また、障がいへの理解も広げたいと思い、講演会を始めた。

学校の先生や保護者、福祉関係者などが参加しているが、最近は父親も参加するようになってきて、時代の変
化を感じ、良いことだと思っている。

昨年度は10月と2月に講演会を実施し、10月の講演会は「発達症の理解と対応」という内容で、とても参
加者が少なく驚いたが、人数が少なかったため、質疑応答がとても濃い内容となりよかった。学校の先生も今
困っているこどもの対応などの質問をし、それを聞いた保護者が、「先生が頑張っている姿を見れたことが良か
った」といった感想や、「育児に関するヒントをもらえて良かった」、「学童保育の現場での対応方法を学べて良
かった」との感想もあった。

2回目は、「発達症と性の対応」という内容で性について知ってもらった。性についてはとてもナイーブなもの
なのですごく難しいが、きっちり伝えてもらい、とても良い講演だった。「本当に困っていることの議題だった
のですごくためになった」「聞きづらいこと、知らないことをたくさん学べた」といった感想があった。

(委員)

今日参加された4つのグループの活動は、和泉市の市民の方々、まさに今発表されたような困っている方々が、
それによって救われていくような、そういう広がりがすごく大事だと思う。例えば講演会の参加者が少なかっ
た。それはそれでいい。それをどう広げていくか、助成金を使って、広めていって欲しいというのが、今日4

つの申請団体の話を聞いて思うこと。小さな活動の動きが大きくなうねりになっていくような、そういうものになることを期待している。

(委員)

学校でも案内されているし、周知活動はじゅうぶんしていると思うが、他に新しい周知方法はないか。

(療育と子育てを考える会)

インスタグラムは、他の会を通じて発信している。

(委員)

今届いていないところへ届ける方法を考えていただきたい。

(委員)

今年は1回だけの実施なのか。

(療育と子育てを考える会)

はい。昨年は2回とも参加人数が少なかった。同じ講師が市内の別の団体でも講演していることも関係しているかもしれないが、今年も同じ講師で続けていきたいと考えている。

(委員)

今まで講演会を続けてきた講師ということだが、今まで講師料はどうしてきたのか。

(療育と子育てを考える会)

講師料は助成金を充ててきた。マイナスがでる場合は募金箱を置いて募金を募ったこともある。

(委員)

障がいをもっている人や、気がかりなこどもたち、発達障がいのこどもたちとの関わり方などは、何か気持ちを伝えよう、聞こうと思っても、なかなか伝わりにくいところもあるので、こういった取組、それからそういった話し合いのというのはすごく大事だと思う。講師の話を聞くことも学びではあるが、市民レベルでいろい

ろな会話対話をして、もっと広めていただくと、こどもたちや障がいのある人の安全にもつながるし、そういうつながりが広がっていくと良いと思う。

(事務局)

療育と子育てを考える会の皆さんありがとうございました。

これをもちまして、本日の審査会はすべて終了いたします。

申請団体の皆様には、審査結果として、後日、交付決定通知書または不交付決定通知書を送付します。

なお、この後審査委員による審査を行いますので、申請団体の皆様はご退席をお願いします。

長時間にわたり、どうもありがとうございました。

【委員審査】

(委員)

(採点)

(事務局)

(集計、順位・結果発表)

(審査会終了)